

長野県小川村長 大日方茂木



1. 道路行政全般について

道路は人が生活する為の必須条件。全国の何処でも格差なく人が暮らせる為の道路を建設、改良するのは行政の必定的役目である。

2-1. 地域の現状と課題

○現状

- 小川～長野線については改良率が44.4%と低い状態である。

- ### ○課題点

- しかし改良されたバイパス部と従来の一般部が混在し、生活道路となっているこの路線は、交通事故死亡者が非常に多いという新たな問題も発生した。

これに加えてこの道路が北陸圏と関東圏を結ぶバイパス的要素が極めて強くなったことである。通行する大型貨物自動車の急激な増加による騒音、振動、ゴミのポイ捨て公害も急増した。またバイパス部分が一部有料道路化されていることが地域の大きな問題となっている。

信濃～信州新線については一部改良が残り、早期完工が課題である。

長野～小川線は未改良部が多く存在し早期の改良が課題となっている。

- *村道一村（地方）に人が暮らせる（住める）為の最低条件の一つが道路である。改良率が20%以下と極めて低いところから見ても早期の改良が必要である。しかしながら財源が厳しい実態から過疎債などの制度資金を使わざるを得ない状況であるが故、何としても地域の暮らしを守る過疎対策特別措置法のような基本法の継続が必要である。

2-2. 地域の目指すべき将来像

当村では車社会となった時から、長野市への所要時間の短縮、交通渋滞が大きな課題であった。幸いなことに通称オリンピック道路の建設が、概ねこれを解決し事業の効果は現れていると言えよう。

しかし有料道路資金を利用して建設した事による日高トンネルを含む有料道路化が新たな課題となった。

3. 道路施策の重点事項

- *オリンピック道路白馬ルート（県道31、33号線）

有料道路化されている部分の1日も早い無料化。

- *長野環状道路

県庁所在地の国道で、片側2車線の整備がなされていない都市は、道路整備の遅れを指摘せざるを得ない。既に地域高規格道路の候補路線となっている長野市街地を取り囲む長野環状道路の建設が急務である。これは県都長野市を中心とする広域圏に共通する大きな課題であり、広域圏の交通や救急問題を大きく解消する事であろう。

- *松本糸魚川道路

松本市と糸魚川市を結ぶ地域高規格道路の建設は、起点を現在の高速道豊科インター付近とすれば建設コストの大幅削減となる。特に小谷村の生活道路については早期の改良が望まれると考える。

4. その他

国道の改良箇所の有って、片側のみで拡幅改良すれば間に合うものを、あえて両側に拡幅をして、本工事費よりも用地費、家屋補償費等の方が高くなるとされる工事箇所が見られるが、如何なものか。

更に、道路問題を政争の具に利用しようなどという動きが見られる。それはとんでもない見当違いだと指摘したい。元来「道路は無料」が大原則である。しかし国内の高速自動車道を完全無料化したら、大変な交通渋滞を引き起こす原因になることは必定。

現に欧州諸国では無料高速道路の慢性的渋滞解消に、日本を見習い有料化の検討をしていると聞く。